本編 17「第一大『犍度』」その６「７人めの阿羅漢」2020.10.24

※二度の初転法輪？　コンダンニャ長老が預流果に悟った初転法輪（四諦八聖道）は「転法輪経」（相応部・大篇・諦相応・転法輪品）に。五日後に全員が阿羅漢に悟った第二転法輪（五蘊無我）は「無（⇔非）我相経」（相応部・蘊篇・蘊相応・近著品）に。**光明寺経蔵**

〇バーラーナシーの長者の子ヤサさん

sukhumāla ひ弱？繊細？　冬、夏、雨季それぞれ用の楼閣あり。←釈尊の実家も。
雨季の楼閣で女人だけの伎楽団に囲まれ四ヶ月間を過ごし、楼閣から出ることがなかった。ある夜、遊び疲れてヤサさんが先に眠り、伎楽団が後から眠り、夜通し油燈が点いていた。←後片づけしないまま、伎楽団人もうっかり寝落ちした。
翌朝、ヤサさんが先に目覚め、自分の侍女たちが眠っているのを見た。
←普通は侍女が先に起きて朝からお世話する。
楽器を抱いたまま、髪を乱し、よだれを流し、寝言を言って、墓場（死体）のよう。それを見てヤサさんに患い ādīnava が生じ、心に厭う気持ち nibbidā になった。「ああ、禍いだ upaddutaṃ、悩乱だ upassaṭṭhaṃ」。
ヤサさんは黄金の靴を履いて楼閣の門に近づいた。［人間の門番ではない］非人 a-manussa たちが門を開いて言った。「良家の子ヤサの出家を誰も妨げることなかれ。」次いで、バーラーナシーの城門に近づいた。非人たちが門を開いて……「妨げることなかれ」……仙人住処・鹿野苑に向かった。
世尊が早朝に起きて露地で経行しておられたところ、ヤサさんが来るのが見えた。経行処から座禅する場所に移り、座られた。ヤサさんは世尊の近くでまた「ああ、禍いだ、悩乱だ」。世尊がヤサさんに呼び掛ける。「ヤサよ、ここに禍いはない。ここに悩乱はない。来なさい、ヤサよ、座りなさい。そなたに真理を教えよう」。それを聞いて、喜んで靴を脱いで世尊に礼拝して一方に座った。

〇次第説法 anupubbikathā　**※在家者には在家の話から順次に解脱へ**

一方に座ったヤサさんに次第して説法した anupubbikathaṃ kathesi。すなわち：
①布施 dāna の話、②道徳 sīla の話、③天 sagga の話**（施論、戒論、生天論）**
→現世で在家で成功し来世も成功する生き方
④諸欲の kāmānaṃ患い ādīnava、虚仮 okāraṃ、雑染 saṃkilesaṃ
⑤離欲における nekkhamme [ni-kāma-ya]利点 ānisaṃsaṃ
→在家生活の長所と短所
適切な心 kallacitta、柔軟な心 muducitta、蓋を離れた心 vinīvaraṇacitta、喜ぶ心

ud-agga-citta、清まった心 pasannacitta になったのを確認して、諸仏の最勝の法を。⑥苦集滅道。

それを聞いて即座に遠塵離垢の法眼が生じた。「生じる（集）ものはみな滅びるものである」→預流果。

〇父は預流果、ヤサさんは阿羅漢に

ヤサさんの母がヤサさんがいないのに気づいて、父に報告。方々に使者を。父は仙人住処に。黄金の靴の跡を見て探す。

世尊は、ヤサさんが父に見えないように神通力を使った。

「尊者よ bhante、世尊は bhagavā（表現は後に統一されたかも。釈尊固有の尊称ではないかも）ひょっとしてヤサをご覧になったでしょうか？」

「それならば、家主よ、お座りなさい。ここにお座りになったら、ここに座っているヤサを見ることができるでしょう」。喜んで座った。

父に次第説法を。父も預流果に悟った。

「私は世尊と法と比丘サンガに、命終わるまで帰依します。在家信者としてお認めください」。**これが三帰依の在家信者の最初**。※阿羅漢 6/7 名の比丘サンガ →61 名を「サンガを作らず解散」したのではなく「一人ずつ新たにサンガを作れ」の意

ヤサさんはそのとき、見るままに知るままに地を観察し yathādiṭṭhaṃ yathāviditaṃ bhūmiṃ paccavekkhantassa、諸漏より執着なくなり心が解脱した anupādāya āsavehi cittaṃ vimucci。

世尊はそれを知って、「ヤサはもう在家のときのように hīnāyāvattitvā 諸欲を享受できない kāme paribhuñjituṃ。神通を解除しよう」。

〇悟りは不退転

父は目の前に座っているヤサさんを見て「母が悲しんで死んでしまうぞ」。

ヤサさんは世尊を見た ullokesi。世尊が答える。

「ヤサがすでに有学の智見をもってものごとを見ていたのは今のあなたと同じ。しかも今、彼は諸漏より解脱している。ヤサが以前のように在家の生活を享受することができるでしょうか？」

「いいえ。世尊よ、ヤサが解脱したのは、ヤサにとって善いことです。願わくば、私の請いを受け、今日の食をヤサを随従沙門としてお受けください。」

沈黙して受諾。受諾を知って、立ち上がり、右遶して去る。

ヤサさん：「出家をお認めください」。「来たれ比丘よ」。阿羅漢が七人に。

※在家阿羅漢は無理のわけ↑「日本仏教に悟りはあるか？」『日本仏教学会年報』84 号